



2008/4/1 No. 47

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地



多くの方の祈りと 支援によって

理事長 木下 宣世

新年度を迎え、皆様新しい希望を抱いて出されたことと思います。皆様方の上に神さまの恵みと導きが豊かに与えられるよう祈ります。

日頃、ミッドナイト・ミッションのぞみ会の働きをおぼえて、お祈りとご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

与えられた機会に過ぐる一年を顧み、新年度の取り組み等について私の立場から報告させていただきます。

まず全体的に大づかみに申しますと、どの施設も大きな事故を起こすことなく利用者の皆様を受け入れ、お世話することができました。それが当たり前なのですが、同時に一番感謝なことです。十分気を付けているつもりでも何時、何が起るかわかりません。これからも気をゆるめる事なく、全職員が一人ひとりの利用者の方々に注意深く目を注ぎ、心を込めてお世話していけるよう努めたいと思っております。

昨年、最も注目されたのは二〇〇六年一二月に開設された児童養護施設「望みの門かずさの里」ではないかと思えます。当法人としては初めての分野の働きをしたので大丈夫か

との心配もありました。しかし、お蔭様で一年かけて順次定員の三〇名を受け入れ、これまで無事に歩んでくることができました。元気そうな子どもたちの顔を見るとほっとします。また、四月には三名の高校進学者が生まれました。皆様方のご支援とご協力、特に地元の方々のご理解に心から感謝いたします。そして今後共よろしくお支えくださるようお願い致します。

今年度法人にとって最も大きな取り組みは紫苑荘の耐震及び個室等の増築工事です。かねてから紫苑荘の避難路は地震に弱い等の問題点が指摘されてきました。そこでこの度避難路を補強し、耐震工事を兼ねた増築工事を行うことになりました。これによって地震対策が施され、ショートステイ用の個室が増え、事務スペースが広がります。また二階三階に食堂が出来、皆さんと一緒に落ち着いて食事できるようになります。工事中利用者の方々にご不便をかけますができるだけ支障を来たさぬよう工夫していきたいと思えます。読者の皆様にもお祈り頂けると幸いです。

この他の各施設も新年度、新しい思いをもってそれぞれの働きに取り組みうとしていきます。新生舎は稲作を始めるとの報告も受けました。新しくマナの家を開設し、大変な仕事を担っている東京望みの門、さらには広汎な働きを展開している君津ふくしネットを含め、今年度も望みの門全般の働きのためにお祈りとご支援を重ねてお願い申し上げます。

『望みの門近未来構想』

のぞみ会
ミッシェルの大切さ

常務理事 井本 義孝



この混沌とした時代の先の見えぬなかで、今年ほど日本人の使命感の重要性、その意義が問われることはあるまい。

数日前、あるJR駅前のまだ夜とはいえ八時前、通りがかりの人に道を尋ねた。すみません、すみません、と声をかけたが無視、振り向きもせずに行く。次の通行人も又、同様であった。帰宅を急ぐ気持ちにはわかる。しかし、暗闇ならまだしも明るい駅前通りの出来事であった。余計なことにはかわりたくない。実に寒々とした気持ちになった。

社会は確かに偽り、ごまかし、そして弱いものいじめの報道で不信だらけの様相を呈している。衣食足りて礼節をしるところか、飽食極まりて心を失う時代となつていよう。人になど構っておれない。触らぬ神にたたりなし。一事で万事を凶る愚はしたくないが、ここまで人心の荒廃が進んでいることは全く想像外であった。今日ほど私達法人のミッシェルの意義が重要になった時代は敗戦時の他なかったではないか。

当時はまだ貧しいもの同士助け合う温かい心を持ち合わせていた。現在の日本は全てが物化しているような危機を迎えている。

しかし、時代の波が押し寄せ激流逆巻き小船を翻弄しようとも、私達は主なる神をより頼み人智のおよぶかぎり、力の尽きるまでひたすらに目前の課題と取り組むほかはない。

新年度定期の人事異動を実施した。新規採用者、短大新卒保育士二名他三名、昇格者副施設長一名他五名、施設間異動者六名等であった。事業は人なりである。福祉こそその最たるものであろう。日々の自己啓発研修と内外の組織的研修は不可欠である。幸いに当法人は創立以来のよき伝統、キリスト教の教えにたち、いつの時も自分より隣人のニーズを優先する利他の気持ちで利用者サービスに尽くしてきた。

このキリスト精神があるかぎり次の事業も必ず成ることを信じる。

近未来の主たる事業

- ①紫苑荘大規模増改築及び耐震強化工事
- ②新生舎による米作着手と地域環境改善
- ③旧さざなみ荘改修によるモデル老人ホームの開設
- ④介護予防サービスおよび健康増進設備など在宅支援サービス部門の拡充
- ⑤施設長に年俸制を導入し事業の経営化をはかる。

特別養護老人ホーム

望みの門紫苑荘

紫苑荘個室等増築及び
避難路耐震工事について

施設長 篠 昭博

紫苑荘は昭和五五年に竣工し、平成二〇年度には二八年目を迎えるようとしております。

この間、ショートのステイサービス創設のための増築や、厨房の多目的ホールへの改修、楽生園との連絡橋の建設など随時改修を行ってまいりましたが、構造的にも運営上にもいろいろと支障をきたしており、平成二〇年度事業として懸案の避難路耐震補強と個室化に重点をおき施工させていただくこととなりました。避難路は、築二八年の経過に伴い補修の必要が発生していることに加え、平成八年度の耐震検査に於いて補強の必要があるとの結果が出ているため、この両側に既存介護棟を拡張し増築するとともに、これにより補強をはかります。

増築部分には、個室一二室、二人部屋四室を設置し、既存施設では実現できなかった個室利用による個人の生活空間の提供が行えるようになります。

また、感染症予防対策の効果的実施が可能となり、尚且つ短期入所者の性別による居室調整が必要なくなるため、サービス利用希望に対し迅速な対応が可能となります。

さらに、既存施設の居室調整を行い、医務室を居住区域へ移設し、介護ステーションと隣接させることにより、看護職員の動線を削減し緊急時の迅速な対応と介護職員との連携をさらに強化することができそうです。また、二階に共用スペースを設置し、ゆとりのある生活空間を提供するとともに、利用者の方々の活動範囲を拡大することとなります。工期は、概ね六月から一二月までを予定しております。

終の棲家として紫苑荘で生活されている利用者の方々に、少しでも心休まる落ち着いた空間での生活をしていただくべく、役員一丸となって安全第一を心掛けこの事業に邁進してまいります。ご家族並びに関係各位様には、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

婦人保護施設 望みの門学園

春です。新しい季節の季節です。

園長 坂井 順子

望みの門学園には、現在学園外に勤務している女性が七名います。内二名は、まだ入所して間がありません。元々学園に入所する女性には様々な問題を抱えている訳ですから、外に勤務するまでにはかなりの時間がかかりました。しかし、若い二人は何とか仕事がありました。職員で話し合い、心配なこととは沢山あるけれど、先ず二人の思いを受け止めることにしました。

たまたま近くのスーパーでアルバイトの募

集があったので、面接だけでも受けさせてくれるように頼みました。ところが早速採用してくれたのです。職員が大喜びしました。初出勤の日、「どんな失敗をしても必ず学園に帰っておいで」と言って祈り送り出しました。今二人は職員の期待に応え、毎日レジ係として働き、輝いています。

別の二人は、ステップハウスと呼んでいる、学園から自転車で一〇分ほど離れた借家に暮らし、そこから望みの門の新生舎と紫苑荘に通い、働いています。学園の利用者には、いきなりの自立は無理です。それで、担当の職員の支援を受けながら、二人だけで生活し、自立に向かうステップを踏んだのです。少し精神的に疲れたなと思えば学園に戻って暮らし、また二人の生活を始めるという具合です。二人が自立できるのも近い将来でしょう。

さらに私たちの仕事は、退所者にも及びます。アパートを借り、生活保護も受けながら、一人で生活している女性がありますが、完全な自立はなかなか無理です。それで職員がジョブコーチとして支えています。驚くのはアパートを世話してくれた不動産屋さんです。彼女の保証人になってくれたのです。

このような自立に向かっての活動の背後には、多くの方々の祈りと目に見えない支えがあります。また、最近では地域の方々が、積極的に協力してください。多くの善意は、彼女たちの踏ん張る力になります。私たちにあって何よりうれしいことです。

養護老人ホーム

望みの門楽生園

新年度を迎えて

副施設長 白鳥 正道

楽生園のさくらの花もほころび始め、春を感じる季節となりました。皆様には日ごろよりのご奉仕と、お祈りに支えられ、感謝いたします。

さて、以前からお知らせの通り、平成一八年の介護保険制度改正は、養護老人ホームにとっても大きな変革の年でした。制度改正で養護老人ホームができるようになったことは、①介護認定を受けていても入所可能である。②措置施設に入所しているながら介護保険サービスを受けられることです。いままでは、日常生活動作が著しく低下した場合には、楽生園を退所し、介護サービスが受けられる施設へ入所するという流れが一般的でした。しかし、これからは特に医療行為が必要でない限りは入所したまま介護サービスが受けられます。私たちにとっても機会を与えられ、気持ちを新たにしています。

平成三年に生まれ変わった楽生園も早一七年が過ぎ、外装も随分汚れてきており、今年と来年の二カ年で塗り替え工事を予定しています。家族会も四月二九日の予定で開催する予定です。

まだまだ混乱の続く「年金問題」や「後期

高齢医療制度」もスタートし、入所者を取り巻く環境は刻々と変化していますが、楽生園のゆったりとした雰囲気の中、入所者の皆さんには今までと変わらず生活を楽しんで日々過ごしていただけるような施設であり続けられるよう感謝しつつ祈ってまいります。

特別養護老人ホーム

望みの門紫苑荘

笑顔



副主任生活相談員 平野 吉広

生活相談員となって約一年が経とうとしています。この紙面で、利用者の方が楽しみにしていること、私が、毎日仕事をさせて頂き感じることを書きます。

春 待ちに待った花見の季節です。外出に躊躇する人もこの日ばかりは、浮き浮き気分です。桜色の香りのシャワーに全身を包まれます。幸せな表情にこちらも顔がほころびてしまいます。

夏 納涼祭は、踊りのボランティアの方と踊りをします。若い時に日舞を習っていた方はさすがです。また、日頃、内気な方が大きな声で民謡を歌ったりしてびっくりすることもありました。

秋 敬老会。昨年は、百歳を迎えた方がいらっしやいました。いつも笑顔を絶やすことのない、好奇心に溢れ理想的な歳の重ね方を

している方です。

冬 お正月の飾りやおせち料理に新年を迎える喜びを感じます。普段よりも食欲が増して、嬉しく思います。

以前と比べて利用者の方と直接、接する時間が少なくなっていますが、利用者の方は、以前と変わらず会うと必ず笑顔で挨拶、中には嬉涙を流して抱きついてくる方もいます。昼食時には、必ず二、三階で利用者の方と一緒に食事をしながら日頃の不安、出来事、昔話を聞いて心安らぐ時間を過ごしています。

面会の方々に「私たちの代わりに色々とおりがとう」との言葉に励まされますが、こちらこそ利用者の皆様や家族の方、関係者の方々に沢山の力を頂き、感謝です。今年度は、家族の方でできるだけ行事に参加していただき、利用者の方との心暖まる時間を共有することに努力いたします。

知的障害者通所授産施設

望みの門新生舎

存在価値



副施設長 森 和浩

自立支援法が施行されてから一年が経過し、この間、この法律に対する様々な見直しが行われており、加えて昨年一〇月には請求事務が国保連合会に変わるなど、やはり昨年度も自立支援法の対応に追われた一年でした。今

後も改定や抜本的見直しが予定されており、今年度も対応に追われる一年となりそうです。自立支援法が本来あるべき姿になり、障害者が安心して無理なく地域で生活していける法整備が期待されるところです。

さて、新生舎では現在三六名の利用者が毎日通所し、それぞれがのぞみペーカリー・おひめ倶楽部・エコクラブの作業部門に所属し、毎日自分の力を精一杯発揮して取り組んでいます。なかでも昨年度大きく変化したエコクラブの季節の野菜や店頭を飾る花たちには法人を始め地域の方々もちょっと驚いてい

るのではないかと思います。
新設したビニールハウス二棟から年間を通じ安定した作業の提供に結びつけ、個々人の新しい役割や自分を発揮できる作業が発見できたことは画期的であったと思います。大きく変化したのは作業ばかりではなく、そこに働く利用者の意識にも少しずつですが変化が伺えました。

自分たちが栽培した野菜や花が好評に人の手に渡っていく様子を見て働く喜びを感じ、自分から作業に取り組む姿勢や意欲・自分の仕事としての責任という理解が芽生えてきた様子です。トラック満載のキャベツの収穫には利用者の満足げな表情と、自分たちの仕事としての自信や誇りが感じられたのは私だけでしょうか。

このように日々の作業を通じて利用者一人ひとりの存在価値を認め、様々な形で地域や



社会に紹介していく機会を提供していくのは、私たち職員の使命でもあり責任と感じます。法人各施設の機能や役割に於いては利用者へのサービスの提供が根幹であり使命ですが、新生舎ではそれに加え利用者が関わった製品の販売という、他の施設にはない特徴を備えています。この特徴を大いに活かし社会への情報発信として今後も取り組めたらと考えます。

今年度新たな試みとして新生舎では稲作事業を開始する事となりました。十数年来の休耕田は背丈を超える草や雑木。実施計画から三年を費やしてきたわけですが、ようやく作付けの運びとなりました。

この稲作事業には法人としての地域への使命や大きな意義が詰まっています。ある会社は全国的に植林活動を実施し、ある企業は社員のボランティア活動に取り組むことで地域や社会にその会社の存在価値を高めています。この稲作事業は新生舎の事業ではありませんが、地域や社会への法人としての姿勢やスタイルを示すものであり、法人としての存在価値を改めて伝える機会と考えます。

空高く鯉が泳ぐ頃、川名のたんぼに新しい稲の苗が天に向かって風にそよぐよう、多くの方の応援を期待いたします。

一体型共同生活介護事業所

グレースホーム

グレースホームの世話人として

副主任世話人 樋口 千恵

お正月の二日から三日、グレースホームでは恒例となっている残留者一泊旅行を行いました。当日、お出かけに着替えてからのみなさんは少し緊張した様子でしたが、大好きな温泉に入り、「ゆったり・のんびり」とお正月気分を満喫。もちろんこれは利用者さんだけで、職員は「介助に把握」にと、まずはひと仕事でしたが……。

さて、待ちに待った宴会です。宴会では少しお酒も入り、カラオケで大盛り上がり。普段感情を表に出すのが得意ではない利用者さんが、膝の上で小さく手拍子を打っているのを見て「楽しんでいる



んだなあ」と感動する職員。私は一月の異動で、グレースホームの一員となり、いきなりの行事参加だったのですが、そんな光景が、グレースホームのあたたかさを感じさせてくれました。

部屋に戻ると今度はお茶会。布団の上でおしゃべりが止まらず就寝時間がずいぶん遅くなってしまいました。富津市内の旅館で、本当に温泉と宴会だけの外出でしたが、いつもと違う時間と場所で、みなさんとても嬉しそうでした。

日常の生活に戻ると、第一から第四までグレースホームを行ったり来たりする新人の私に、みなさん揃って「もう慣れた？」と声をかけてくださり、そして必ず「大丈夫だよ。」と言ってくれました。「はい！」みなさんがいてくれるから大丈夫ですね。

本心に心の温かい利用者さんばかりなのですが、そこは様々な経験を積み、年齢を重ねてきた方々、時には利用者さん同士がぶつかりあうこともあります。家庭的な雰囲気をもつグレースホームでの暮らしではあっても、家族ではない人達との共同生活にストレスや不満が出てくるのは当然のことでしょう。私たち世話人は、そのすべての言い分や希望を受け入れられるわけではありません。ですが、一緒に考え、できる限りの手助けをすること、信頼関係を築き、精神面での安心や満足につながることをできるのだと思います。

加齢化に伴い、年々重度化していく方々に、

日々の体調を把握しながらも、穏やかな、また張りのある生活を送っていただけのような支援を、世話人一同心がけています。

「支援」は私たちの仕事ですが、利用者の方と世話人の関係はそれだけではありません。世話人が利用者の方から教えられることや、癒されることも多くあります。私も自分を磨き、正しながら、これからと学びあう関係でありたいと思っています。

通所介護

望みの門デイサービスセンター 新年度、スタートにあたり

副主任介護員 渡邊 恭伸

望みの門デイサービスセンターは利用者の意思を尊重し、可能な限り居室において自立した生活が出来るよう、必要な日常生活の支援及び、機能訓練を行い、社会的孤立感の解消、心身の機能の維持、家族の身体、精神の負担軽減をはかることを理念とし、平成一三年七月に開所。もうすぐ丸七年を迎えようとしています。

昨年一九年度は、日曜日の行事実施や菜園の整備、菜園に隣接したスロープに機能訓練用にと手摺を設置する等、利用者の皆様が外に出る機会を増やし、何気ない生活の中から知らず知らずのうちに、体力の維持・向上につながるような環境作りを進めて参りました。特に、行事やアクティビティ関連では、「閉じこもり・引きこもり・孤立感」からの脱却

と、「地域との交流」を合言葉に、かずさの里体育館をお借りして実施した敬老会を始め、様々な行事や外出を積極的に企画致しました。今年度の課題として、地域の各種行事の参加や、学校や地域サークル等のボランティアの拡充等々地域との交流をより一層深めていきたいと考えております。

また、前年度九月以降は、開設以来初めて、一日平均利用者数二〇名という目標を達成する事もできました。今後ともさらに費用対効果の面から見た利用者の獲得はもちろん、その基盤となる他事業所に対する競争優位性の推進を図っていきたく思っております。

デイサービス職員のモットーである「顧客満足度」を常に念頭に据え、また、利用者様の「喜ぶ顔」が一回でも多く見られるように、サービスの質の向上に努めていきたいと思っております。今後とも皆様のご支援、ご協力宜しくお願い致します。

地域活動支援センター

望みの門デイサービスセンター

外へ出ましょう

指導員 天野 典子

ヨカデイは一九年度から地域活動センターとして運営するようになり、早くも六月には木更津より一名利用するために通っています。バスに乗っての来所は、他の利用者には良い刺激となっているようです。休み時間には、彼女の回りで話し声が絶えません。折り紙、



カラオケ、工作、ぬりえ、と何でも出来る彼女です。が、外には余り興味ありません。二月のある日、散歩に行っていた一人が、手にふきのとうを持って帰りました。ほろ苦い独特の匂いを皆で嗅いだ後、窓辺に飾りました。他の人達も、ウォー

キングの途中覗き込んでいました。寒いと言っ外に出るのを嫌がっていた彼女も、興味津々なのか、見るため外に出るようになりました。今、ヨカデイでは、利用者の体力維持を図るため、ウォーキングを取り入れています。万歩計を腰に、目標八千歩です。個人差があり、「全員そろって」と言う訳にはいきませんが、頑張っています。ある利用者は、少し歩いただけで「ハーハーもう駄目。まだ？」と言っていたのが今は、八千歩歩いて「もう少し歩くな」と一万歩歩くようになりました。全く歩けない利用者はその間、日光浴やガーデニングです。ヨカデイ前の花壇には花の苗、裏には絹さや、ジャガイモを植えました。暖かくなるこれからの季節、地域奉仕活動である空き缶拾いもふまえ、野外活動をおおいに楽しみたいと思います。

児童養護施設

望みの門がほの里

桜始開

副主任児童指導員 井本 義樹

百花に魁けた梅の花も終わり、花壇には黄色い菜の花が誇らしげに咲いています。年を重ねた桜も薄紅色の花を咲かせ、里に二回目の春が訪れたことを知らせています。

昨年末には幼児二名を迎え入れ、定員三〇名いっぱいとなり、より賑やかな年末年始を過ごしました。おせちやお雑煮を皆で囲む大家族の暮らしを日一日と重ねる中、一月中旬には里で初めての高校受験がありました。連日夜中まで受験勉強をしている受験生の姿を見ていると、受験の合否よりも本人達の体調を心配してしまうほどでした。試験当日、受験生はもろろんのこと職員も緊張と不安を感じつつ「落ち着いて受けておいで。」と月並みな言葉掛けしか出来ずに送り出しました。合格発表日までの長かったこと。無事に受験生全員の合格が発表された時には、職員一同ホッと胸をなで下ろしました。

三月一八日には幼稚園の卒園式がありました。入園したての頃は幼稚園の先生の後ろをついて回ってばかりいた二名の園児達が卒園を迎えました。まだランドセルが背中を覆い隠してしまいうくらいのオチビさんが、彼らも四月から立派な小学生です。重い荷物に身体を揺らしながら登校していく姿を想像しますと、成長を喜ぶと共に、その愛くるしさに顔

も綻んでしまいます。きちんと登校できるだろうか？ クラスの友達と仲良くできるだろうか？ ひらがながまだ不十分だけど大丈夫かな？ 等々、やはり心配もつきません。でも、里にはたくさん兄弟がいます。きっと最上級生となる三名が中心になって、小学生達をリードしていってくれることでしょう。幼稚園にも新しく五名が入園します。真新しい園帽をかぶり、通園バッグを提げた彼らの愛らしい姿が見られるのも、もう間もなくです。高校生三名、中学生五名、小学生一四名、幼稚園児八名、総勢三〇名一人ひとりの春。彼らの春に幸多かれと願いつつ、またその幸に微力ながらも、精一杯応援していきたいと思う職員一同の春でもあります。

児童自立援助ホーム

東京望みの門マナの家



調理ボランティア 竹内 寿子

私は、二〇〇〇年五月から東京望みの門の夕飯作りに週二回参加させていただいています。昨年一二月に台所の改築があり、明るく機能的で働きやすい台所となりました。寮長さんをはじめ多くの方々のお力によって成し上げられましたこと、心から感謝申し上げます。

今は「食育」と言う言葉が多くの新聞、本、TVで取り上げられているように、食生活を取り巻く環境が激的に変化しています。望みの門の少女達も各々個性豊かな(?)食生活

感を持っていて、炭水化物ダイエットでご飯は食べない。魚は嫌い。お味噌汁は飲まない。玉葱、ほうれん草は嫌い。肉は好きと食材だけでも様々です。

献立で心掛けていることは、成長期の少女が将来へ向けてしっかりとした身体を造ってほしいことです。蛋白質は充分に取ることに、貧血への注意、ひじき、昆布、切り干し大根等無機質を摂取すること、野菜を沢山献立に入れ「嫌いだ」と思われぬように工夫しています。

六時の夕食時間を過ぎて「もう少し待てば〇〇ちゃんが帰って来るのでみんな食べましょう」と寮母さんのかけ声があり、仕事から帰る仲間を思いやる心を持って一緒に夕食をする。みんな仲良く笑顔でにぎやかに、楽しそうに食事をしているのは、とても嬉しいことです。自立した折に、マナの家には、みんな食べて〇〇はおいしかったなあ。今度作ってみようかなと思いついたら最高に嬉しいことです。退寮生のみなさんが幸せになってほしいと心から願っています。

中核地域生活支援センター

君津ふしネット

センター長 佐野 毅

昨年度一年間に、君津ふしネットに対応させていただいた福祉の相談支援件数は、のべ約六千件、相談のべ実人員は約一八〇〇人



になります。
子ども、高齢者
障害のある方およ
びその家族等から
日々様々なご相談
をお受けしていま
す。そして、受け
た相談を解決に導
くために、市役所
などの行政機関や
地域民生委員さん
地域の他の福祉サ
ービス提供事業等と連
絡を密に図りなが

ら問題解決にあたっては、君津ふしく
ネットでは、家庭訪問や市役所等への連絡調
整のために、二台の軽自動車を所有していま
すが、それぞれの車の走行距離は、年間約一
万二千キロメートルで、二台合わせると、一
年間で地球を約半周した計算になります。
最近の相談で顕著な例は、一人暮らしの高齢
者の見守り活動支援や、障害がある方の就労
支援、また児童養護施設を卒業したが、うま
く地域社会に馴染めずに孤立してしまってい
る青年、また対人接触が上手に出来ずに家の
中に引きこもってしまい、家族共々どこにも
相談できずに悩んでいた、というケースが目
立ってきました。
福祉を取り巻く様々な法律の改正が行われ、
各市役所ごとに「地域包括支援センター」や
「障害者相談支援事業所」、また「子育て支
援センター」等が整備されてきていますので、

今年度も引き続き、そうした地域の身近な専
門機関と連携を密に図りながら、「誰もが、
ありのままに・その人らしく、地域で暮らす
ことができる」新たな地域福祉像の実現を目
指して、五名の専門スタッフ共々更に邁進し
ていく所存です。
二〇〇八年度も、素晴らしい一年間となり
ますよう、関係の皆様方の御支援御協力のほ
ど、どうぞよろしくお願いいたします。

居宅介護支援事業

望みの門在宅サービスセンター より良いサービスをめざして

副主幹 門馬 靖子

介護予防サービスがスタートし一年がたっ
た。当初は要介護から要支援の認定変更によ
り今までと同じサービスが受けられなくなるの
ではといった不安や戸惑いも見られたが、数回
にわたる訪問により理解が得られたように思う。
介護予防は軽度者を対象としてサービスを
利用し状態の改善をする、予防重視のサービ
スでありケアマネージャーをおして改善の
可能性をどこに着目し目標を立て、ケアプラ
ンを作成するか苦心している。利用者様に満
足していただけるサービス提供を第一に考え、
他事業所とも協力していきたいと思う。
在宅サービスセンター勤務としても一年が
過ぎ、初めは前任者のご利用者・ご家族との
良好な関係を見るにつけ、『大変だなあ』と
いう思いが大きかった。とにかく、信頼関係

を築きいつでも気軽に声をかけていただき、
相談をして頂けるようにと努めてきた。今で
は、利用者、ご家族の暖かい言葉に励まされ
ながら、仕事をさせていただいているように
思う。

これからも、他のケアマネージャーと協力
し、日々笑顔で接していきたいと思っています。

「望みの門バザー」のお知らせとお願ひ

恒例の「望みの門バザー」を六月七日(土)一〇時
より開催します。すばらしい掘り出し物を用意し
て皆さまのことお待ちしております。併せてバザー
品の提供をよろしくお願ひ申し上げます。

バザー委員長 田尻 隆

編集後記

初旬の低気圧で桜も散った。
春の嵐である。人生もまた
いつ夜半に嵐が吹くかわか
らない。さて今号から編集
長がN氏からT氏に交代し
た。N氏の労苦に感謝する
と共に、T氏に期待したい。
その気で読めば、紙面の感
じが違ふ。なくて七癖 人には
夫々長短がある。流水くさ
らぬ。施設運営にしても相
当であらざる。施設長も又
永遠ではない。時機に心
適材適所でありたい。四月
から施設長群に年俸制が導
入される。契約期間は二年
である。その間の業績が問
われる。施設にも経営感覚
が求められている。(Y・I)

新しい仲間です

平成20年4月1日 採用

氏名	所属	職種
森 綾香	望みの門かずさの里	保育士(短大新卒)
伊藤成美	望みの門かずさの里	保育士(短大新卒)
菅原園子	望みの門かずさの里	児童指導員助手(専門学新卒)
河田 彩	望みの門紫苑荘	事務員(高校新卒)
川名美保	望みの門紫苑園・紫苑荘	介護員補助(高校新卒)